

「あなたを祝福するために」

—使徒行伝講解説教 8—

創世記  
使徒行伝

第12章 1節～3節  
第3章 11節～26節

説教 本庄侑子 牧師

聖書には「あなたは祝福の基となる」(創世記12章2節)という一つの約束が貫いています。私があなたを祝福の基とするからついて来なさい。聖書全体がそんな神からの招きの言葉です。

神はいつでも、一人の人を選んで信仰の旅にお招きになります。その始まりに選ばれたアブラムは、神の招きを受けた時、行く先を知らずして旅立ちました。そうして、神を信じるようになった一人の人から一つの群れができ、その群れを通して神がこの世界を祝福する。そのような約束の物語が始まったのです。その約束は、今も教会において続いています。

前回、足の不自由だった男が癒されました。男は自由になった足で、まず神を賛美しました。礼拝から始まり、礼拝に帰ってくる人生が始まりました。その姿からは命が溢れていました。

驚いて集まって来た人々にペテロは訴えました。この男を強くしたのは自分の力でも信仰深さでもない、主イエスだと。また、「それを信じる信仰のゆえに」(16節)、つまり、主イエスが無理矢理強くしたのではない。この人自身が主イエスを信じた。だから強くされたのだと。

「信仰」は「信頼」です。「信仰」は、事実の承認よりは、人格的な関係を表す言葉です。「私はあなたを信じます。」と言う時、意味しているのは、「私はあなたが存在していることを信じます。」ではなく、人格的な信頼です。英語では「believe in」、「trust in」と、「in」をつけます。自分の心を、自分自身を相手に投じるからです。

昔、あるゲームをしたことがあります。チームの一人が高い台の上に登り、残りのメンバーは台の下で円陣を組む。そして、台の上の人が、円陣を組んでいる人たちの信頼している所を言い表してから、後ろ向きになって台から落ちる。そしてそれを他のメンバーで受け止めるのです。

メンバーを信じなければ飛び込むことができません。しかし、メンバーがどれだけ信頼できるかを言い表して飛び込んでみる。すると確かに、この体は受け止められて、信じて大丈夫だったと体で実感するのです。ゲームを行った後、互いへの信頼が一気に強められました。

男はそうにして主イエスを信じました。ペテロやヨハネとの出会いの中で、私もこのお方を信じたい、という思いがこの男を満たして

いった。そしてついに、誰に強制されるでもなく、主イエスへの信頼を言い表して飛び込んだのです。飛び込んだ先で、確かに受け止めてくださる主イエスを知り、いよいよ主イエスへの信仰が強められていったことでしょう。

信仰は、彼に強さだけでなく、「完全ないやし(perfect health, wholeness)」(16節)をもたらしました。キリストは「いのちの君」(15節)です。「いのち」は、命の源なる神との交わりを表します。どんなに優れた電化製品もプラグを電源に差し込まなくては意味をなしません。同じように私たちの命も、どれ程頑張っても、神との交わりなくしては意味を見出せないのです。

主イエスは、神との交わりにある命を、ご自身の姿を通してお見せになり、プラグが外れてしまっている私たちを神につなぎ直すために生きてくださいました。しかし、人々は主イエスを殺してしまいました。自分の信念や生き方が揺さぶられたからです。これは他人事ではありません。私たちの罪の問題です。罪は、自分自身にこだわる頑なさとなって現れてくる。

しかし、ペテロは言います。神はそれをご存じの上でキリストをお送りくださった。そして死から復活させてくださった。私たちはとてつもない赦しをいただいたんだ、と。私たちはみな、悪いのはあの人だ、この人だ、と違って生きていたい。そんな私たちが罪を認めることができるとしたら、ただ神による。神の、とてつもない愛と赦しを知ることによるのです。

神の愛と赦しの力によって、神のもとに立ち返らされる時、真の慰めがやって来ます。「慰め」(20節)は、リフレッシュや休息のことです。神に繋がる命から本当のリフレッシュ、休息が来る。自分の存在や人生の意味に神の命という電流が走るのです。そして、神のもとに帰る礼拝生活の中で、命が溢れて行くのです。

かつてアブラムと出会い、足の不自由な男と出会った神は今朝、あなたを選び、ここにお招きになりました。まず、あなたを「悪から立ち返らせて、祝福に与らせるため」(26節)です。あなたから始まり、終わりの日に完成を迎える、神の奇跡の物語がある。それが神の約束であり、今朝私たちがここにいるたった一つの理由です。

(記 本庄侑子)